

まちづくり推進委員会第19回“地域支え合い分科会”議事録

○日 時 2021年2月17日(水) 午前10時～正午

○開催方法 ZOOM

○参加:14名

☞東京大学高齢社会総合研究機構(IOG):2名

高瀬特任研究員、佐賀大学大学院学校教育学研究科荻野准教授

☞地域支え合い分科会:12名

検討テーマ:地域支え合い活動に関するアンケートについて

1 アンケート結果について:高瀬先生から概要報告

☞40部送付したうち33名から回答が寄せられた。

☞「現在も続けている活動」としては、町内会活動のベースである、①子供のための交通安全見守り活動②町内清掃、③防犯パトロールに多くのチェックがあった。

☞「現在は活動していないが、今後コロナが流行している中でも関わる活動」としては、①対面で話し相手になること、が多いのが特徴的で、②家の中の困りごとの支援、③庭や家の前の掃除や草刈りの手伝い、④買い物への付き添い、⑤電話で話し相手になること、⑥買い物の代行、が続いた。

2 “コロナ禍”の町内の雰囲気

☞ 他の町に比べて、かねてより“立ち話”をする風景の少ない地域だと感じていたが、“コロナ禍”でそれが強まった。

3 町内会役員会と“まちづくり推進委員会”との関係

☞ 昨年2月以降の“コロナ禍”での活動の足踏み状態までの4年間を振り返ると、①2017年～18年の東大 IOG の支援を受けた“まちづくりワークショップ”を皮切りに、②2018年秋からの“まちづくり推進委員会”の発足と諸課題の検討、③2019年春の全町アンケートの実施から地域支え合いサポーターの立ち上げの準備、④2020年1月31日の深沢地区連合町内会での当町内会の“まちづくりの取り組み”の報告、そして“支え合いの仕組みづくり”まで到達していた。

“コロナ禍”から丸1年が経過する中で、面談・説明の機会が減ったこともあり町内会役員(任期1年)との連携が乏しくなりがちである。もう一度仕切り直しが必要ではないか。

☞ この1年間、現町内会役員会は“コロナ禍”での町内会活動の継続のために苦勞されてきたが、2021年度を迎えるに当たって、“まちづくり推進委員会”のこれまでの取り組みと今後の課題を、新町内会役員会の皆さまにしっかりと伝える必要がある。

4 当町のアイデンティティとは？

☞ 当町内会発足から五十周年、オールド・ニュータウンと言われながらも、町内での人との係わりは①ゴミ出し、②町内清掃、③防犯パトロール、④生徒の登下校の“見守り”、⑤防災活動、などをベースに、ア 白扇会の活動、イ 地域助け合いの活動、ウ 様々な町内福祉活動事業(夏祭り、秋の文化祭、子ども会の活動)、など多岐に渡って行われてきた。

また、当町内は“鎌倉中央公園”に隣接するというユニークな特性も併せ持ってきた。

☞ 現在、白扇会の呼びかけから、現町内会役員会において“町内会五十周年事業”の検討が始まった

が、これは、未来を展望した“まちづくり推進委員会”の活動とも関わると思われる。

5 今後の課題

☞ これまでの「助け合いの会のお手伝い」に代わる組織を1日も早くこの分科会で作れないか。

【高瀬先生のコメント】

助け合いの会に対して具体的なお手伝いの事例があれば、知らせてほしい。場合により同行したい。

【荻野先生のコメント】

当町内会の取り組みは、東大 IOG の”郊外住宅地の在り方の探求”とも深く結びついている。

【佐々木委員(地区社協)】

深沢地区エリアで、昨年7月に”深沢地区の高齢者福祉を考える協議体(通称「深沢会議」)”が発足した(市内9エリア—中、6エリア—で発足(鎌倉市担当課☞高齢者いきいき課))。例えば”移動分科会”の取り組みなどは、深沢地区全体との関わりの中で検討すると見えてくることもありそうだ。

【まとめ】

☞”コロナ禍”の終息いかんを問わずできる取り組みを考えていくこと。

☞2021年度の町内会役員会とのコンタクトの準備を進めること。

☞”支えてもらいたいニーズ”について、委員に対象者等の選定に協力をいただき、東大 IOG 研究者による個別のインタビュー(ZOOM 活用を含む)の準備を進めること。

なお、東大 IOG は2月26日に打ち合わせをする予定である。

6 次回 ZOOM 分科会

3月8日(月)、10日(水)、11日(木)のいずれかの日時に決める。